第２号様式（第５条）【公開】

提　案　書

※　記入上の注意

①　第２号様式はページを増やさず、必ず２ページ以内でまとめてください。

②　第２号様式は広く情報公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

③　資料をＡ４判２ページまで添付することができます。その際、資料の両側に15㎜以上余白を確保してください。

④　提案書、添付書類は、選考委員会委員には白黒コピーで配付します。

提案名 （２５字以内）	夢ワカメ・ワークショップ
グループ名 （２５字以内）	ＮＰＯ法人　海辺つくり研究会
グループの現在の主な地域社会貢献活動の内容及び最近５年以内の実績	表題の活動はみなとみらい地区で過去8年継続しています。その他、金沢区内で海の生態系回復のためアマモ場の再生活動。東神奈川で良好な海辺環境再生のために干潟造成実験。多摩川河口において干潟調査、ハゼ釣り調査。お台場において海苔養殖復活などを手掛けています。
助成金を受けて行う活動の目的 （「地域における良好な環境や地域の価値の維持・向上」にどう資するか具体的に記入してください。）	海辺に触れられない港湾区域において、参加者を募集しワカメを育成することで、海域の水質浄化に直接貢献するとともに、東京湾の海辺に親しみを持ってもらうことや、東京湾を良くしていこうという意識を醸成する。さらに、海外の山岳民族の健康に貢献し、栄養塩の系外排出を行う
助成金を受けて行う活動の内容	１１月に一般参加者を募集し、種糸を取りつけてもらい、マイワカメとして育成を行う。２月にこのワカメを回収し、重量を測定することで、回収した窒素やリンの量を数値として示し、浄化量を共有する。また、このワカメを持ち帰り食べることで、循環を図る。さらに、このワカメのうちの一部をヨード不足で健康被害の出ている海外の山岳民族に送る。
今回の提案の特徴その他特にＰＲしたい点	東京湾において海域の水質を浄化することによって港湾および海辺に対するイメージをアップさせることは、東京湾を良好にしていくために大きく寄与するものと考えられる。ワカメなどの海藻類は、生長にともなって海水中の窒素やリンを吸収し、酸素を放出するため、海水の浄化に効果が高いと言われている。これを一般参加者に参加できる形にしたことにより、環境学習面、環境意識の啓発といった点で効果がある。また、海外へ海藻の寄付を行うことで栄養塩の系外排出だけでなく国際貢献につながる。

● 活動計画

助成金を受けて行う活動の内容を月ごとに記入してください。すでに行った活動がある場合は、そちらも記入してください。

１０月	横浜海上保安部、神奈川県水産課、横浜市港湾局、パシフィコ横浜に対し許認可申請。および実施準備。
１１月	ワカメの種糸の取り付けイベント（募集人員250名）
１２月	生育状況の観察と参加者への報告
１月	生育状況の観察と参加者への報告
２月	ワカメの回収イベント（11月の参加者250名）
３月	報告書とりまとめ

特定非営利活動法人

海辺つくり研究会

私たちは、沿岸域環境の保全・再生・創出や
自然と共生する海辺つくりを目指します

設立の目的

私たちは、沿岸域環境の保全・再生・創出や自然と共生する海辺つくりに関する事業を、先人の知恵や多くの市民の新しい知恵に学びながら、積極的に推進し、地域の振興や地球環境の保全に貢献することを目的に活動しています。

活動内容

各活動の詳しい内容につきましては下記ホームページをご覧ください。

- ●海辺つくり研究会ホームページ
  http://homepage2.nifty.com/umibeken/
- ●海に学ぶ体験活動協議会　http://www.cnac.ne.jp/
- ●森・里・川・海をつなぐ自然再生活動　http://satochi.net/saisei/
- ●アマモリバイバルプロジェクト　http://www.amamo.org/
- ●夢ワカメワークショップ　http://www.yasumoto.com/wakame/
- ●事務局日記　http://umibay.cocolog-nifty.com/blog/
- ●アマモン Blog　http://blog.amamon-club.com/

事業内容

目的を達成するため、調査研究・研究開発活動、行政と市民のパートナーシップ構築のためのインタープリターとしての活動、人材育成・普及啓発活動などを行っていますが、具体的な活動としては、次のとおりです。

1．調査研究・研究開発
- ①海辺つくりに関する情報の収集、公開、および情報データ ベースの構築、公開
- ②海辺環境のモニタリング、調査研究、計画、評価および情報公開
- ③海辺環境の保全・再生・創出技術の開発と普及

2．インタープリターとしての活動
- ①海辺つくりに関する政策の立案協力・提言
- ②インタープリターとしての専門家の派遣協力
- ③情報共有のためのツール提供

3．人材育成・普及啓発活動
- ①海辺つくりに関する研究交流会や市民、子ども向け環境教育イベントの開催
- ②海辺環境の保全・再生・創出に関する国際協力および国内各地域との連携の推進
- ③ホームページ（機関紙）による情報公開
- ④シンポジウム・セミナーの開催
- ⑤事業成果の出版、販売

多摩川河口干潟生物観察会

夢ワカメワークショップ

アマモ場の造成

シンポジウムの開催

海辺の自然体験指導者養成

和船で櫓漕ぎ体験

海苔養殖の再現

干潟を育てるための調査研究

ハゼ資源量調査

海辺の安全教室

脚立釣りの復活

NPO法人 海辺つくり研究会　事務局

＜住所＞　〒220-0023　横浜市西区平沼 2-4-22 ジュネスササキ 202 号

＜電話番号＞045−321−8601　＜FAX＞045−317−9072　＜E-mail＞umibeken@nifty.co.jp